

進路便り

令和6年9月30日

進路指導部 No. 5

都立港特別支援学校長 岡戸 良雄

発行 進路指導部

秋色の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。2学期も引き続き企業及び福祉施設と相談しながら、進路行事を進めてまいります。今号では、夏季休業中に実施いたしました関係機関訪問や、卒業生の状況、普通科1年進路学習会等についてお知らせいたします。



■職能開発科 相談機関訪問

職能開発科では、例年2年生の夏休みに、在住区的生活支援機関と就労支援機関を保護者同伴で訪問しております。今年度も7つの区を訪問しました。区役所福祉課では障害福祉サービスについて、障害者就労支援センターでは卒業後の仕事へのサポートについて、説明と相談の時間をもうけていただきました。参加した生徒は、卒業後、通勤寮やグループホームを利用し、段階的に自立を目指せることを知ることができました。また、保護者の方からは障害福祉サービスに対する具体的な質問もとびだし、積極的に情報を得ることの大切さを感じていただけたと思います。

卒業後も安心して生活・仕事ができるよう、相談・応援してくれる関係機関との連携を強めていきましょう。

■卒業生 定着支援の状況

普通科

家庭・会社・就労支援センターなど各関係機関と連携して、就職1年目～3年目までの定着支援を行っています。実際に担任や進路担当が会社に伺い、本人の勤務の様子や困り感など、本人・会社の相談に乗りながら支援を行っています。

1年目の卒業生は少しずつ会社にも慣れて、業務の幅が広がってきている様子が見られました。初任給で〇〇を買ったなど、笑顔で報告する卒業生もいました。

2年目3年目の卒業生の中には、後輩に仕事を教える立場となり活躍する姿も見られました。



職能開発科

夏季休業中を中心に、就業1年目から3年目の卒業生の定着支援を行っています。3年目を迎えた卒業生はすっかり社会人の顔となり、職場の方からの信頼も厚くなっていました。また、今後の相談窓口となる、在住区の障害者就労支援センターの担当の方に同行してもらい引継ぎを行いました。1年目、2年目の卒業生は、新しい環境に早く慣れようと努力をしていました。仕事のやり方を覚え、自立して業務を行うことが目標です。失敗してもきちんと報告し、アドバイスを素直に受け取る、同じ失敗をくり返さないように、次に生かしていくことで、一つずつできることを増やしていると感じました。

■普通科1年進路学習会の報告

9月18日(水)に普通科1年生保護者向け進路学習会を行いました。

当日は、生活介護(大田区生活実習所)、就労継続支援B型(みなとワークアクティ)、就労移行支援(HOPE 神田)、障害者就労支援センター(大田区立障がい者総合サポートセンター)それぞれの事業所の方々から、各事業所の概要や求められる力について、現場のリアルな御話を聞くことができ、理解を深めることができた学習会となりました。

また、後半の分科会では事業所毎に4つに分かれ、素朴な疑問や不安を皆で共有し、意見交換を行いました。

